

ひと・夢・まち 町長コラム

自分を大事にしすぎるな。全ての悪事はそこから生じる。(平成31年2月号)

(西郷隆盛・十の「^{おし}訓え」vol.8)

町民の皆さんのおかげで、2期目を迎えることができました。巻頭ページで、町政への意気込みを書かせていただきましたが、決意を新たに、取り組んでまいりたいと考えています。この町長コラムもひと月だけ休載しましたが、今月号からまた再開しますので、よろしくお願いします。

さて、今回の訓えは「自己愛」の落とし穴についてです。

西郷さんは「自分を愛しすぎることは、つまり自分さえよければ他者はどうでもいいような考え方は、最も慎むべきこと。修業がうまくいかないことも、事業が成功しないことも、過ちを改めることができないのも、自分の功績を誇り、おごり高ぶるのもすべて自分を大事にしすぎる気持ちから生ずることなのだから、決して利己主義に陥ってはいけない」と訓えています。

人は、確かに成果を求めます。認められたい、褒められたい。しかし、西郷さんはそういう考えとは逆に、「すぐ認められなくともよい。」と考えていましたし、また、もっと言うならば、そのようなことすら考えず生きていた方が西郷さんだったのではと私は感じます。

人のため、国のため、そして自分が信じた道のために、信念を持って生きた西郷隆盛だからこそ、今の日本の礎を築いた人物になったのだと思います。

NHK大河ドラマ「西郷どん」は終了しましたが、平成29年度から町が取り組んできた「西郷隆盛・従道兄弟と縁ある中山町」PR活動は、町の重要な歴史文化として大切に継続していかなければなりません。

西郷隆盛・十の「訓え」も今回を含めあと3回となりました。町民の皆さんの心に一つでも留めていただければ幸いです。